CHAPTER 6

変更後の作業リスト

クラスタの IP アドレス、ホスト名、またはドメインを変更した後で、次の手順を完了します。

手順

ステップ 1 アクティブな ServerDown 警告が発生していないか調べ、クラスタにあるすべてのサーバが正常に稼働していて、利用可能であることを確認します。パブリッシャ ノードのコマンドライン インターフェイス（CLI）に次のコマンドを入力することにより、アプリケーション イベント ログで ServerDown 警告を確認できます。

```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```

ステップ 2 クラスタにあるすべての IM and Presence ノードでデータベース レプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。次の CLI コマンドを使用して確認できます。

```
utils dbreplication runtimestate
```

（注） すべてのノードで、**REPLICATION SETUP (RTMT) & details** の値が 2 である必要があります。

ステップ 3 作業前のチェックリストにあるステップ 9 を完了した場合は、パブリッシャ / サブスクライバのホスト名 /IP アドレスが各ピア クラスタ パブリッシャ ノードに変更されたクラスタを追加します。

ステップ 4 手順を実行する前に SSO を無効にした場合、この時点で有効にできます。SSO を有効にする方法については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』の「Single Sign-On Configuration」の項を参照してください。

ステップ 5 手動で DRS バックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなすべてのサービスが正しくバックアップされていることを確認します。

ステップ 6 サーバの IP アドレスを変更した場合は、次のように RTMT カスタム警告と保済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンス カウンタから得られた RTMT カスタム警告には、サーバの IP アドレスがハードコードで記録されています。これらのカスタム警告を削除し、再設定する必要があります。
- パフォーマンス カウンタを備えた RTMT 保存済みプロファイルには、サーバの IP アドレスがハードコードで記録されています。これらのカウンタをいったん削除してから追加し直した後、プロファイルを保存して新しい IP アドレスで更新する必要があります。

ステップ 7 関連する他の Cisco Unified Communications コンポーネントで設定上の変更が必要ないか確認し、適宜変更します。このコンポーネントには次のものがあります。

（注）　必要に応じて設定を変更する方法については、ご使用の製品のマニュアルを参照してください。

- SIP トランク
- IM and Presence サーバでトレース収集や DRS バックアップの保存先として使用される SFTP サーバ
- Cisco Jabber
- 関連するルータおよびゲートウェイ
- IBM Lotus Sametime などのサードパーティ クライアント

ステップ 8　すべてのノードで、サービスが稼働していることを確認します。サービスを起動する必要がある場合は、次のコマンドを使用して、次の順序で IM and Presence サービスを起動します。

- utils service start Cisco XCP Config Manager
- utils service start Cisco Route Datastore
- utils service start Cisco Login Datastore
- utils service start Cisco SIP Registration Datastore
- utils service start Cisco Presence Datastore
- utils service start Cisco XCP Router
- utils service start Cisco Sync Agent
- utils service start Cisco SIP Proxy
- utils service start Cisco OAM Agent
- utils service start Cisco Presence Engine
- utils service start Cisco Client Profile Agent
- utils service start Cisco Intercluster Sync Agent
- utils service start Cisco Config Agent

ステップ 9　ホスト名または IP アドレスを変更する前にハイアベイラビリティ（HA）が無効にされていた場合は、すべてのサブクラスタの HA を有効にします。Cisco Unified CM IM and Presence の管理で、[システム（System）] > [クラスタ トポロジ（Cluster Topology）] を選択します。HA を有効にする方法の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ステップ 10　ノードの IP アドレスまたはホスト名を変更した後は、手動で DRS バックアップを実行する必要があります。これは、DRS ファイルでノードを復元するには、DRS ファイルとノードで IP アドレスとホスト名が一致している必要があるからです。変更後の DRS ファイルには、新しい IP アドレスや新しいホスト名が記録されています。

関連トピック

- *『Disaster Recovery System Guide』*
- *『Interdomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager』*